

『梅雨時 過乾燥に注意！！』

フローリングは呼吸しています。適度な湿度も必要です。

フローリングは置かれた環境の湿潤に応じ調湿し、滞留した空気、空間を浄化する素晴らしい性能を持った床材です。

【フローリングの過乾燥による致命的なダメージ】

冬の乾燥期に以前より増して、フローリングの隙間や割れが目立つようになったので部分補修を行いサンダーポリウレタン塗装を行いたいと言う計画で現場調査を行いました。

3年前、体育館床の水拭きはダメ！と国交省より消費者庁、スポーツ庁経由で全国的に書面での通達がなされノーメンテナンスだった公共の体育館が一斉に点検・調査・対策に動きました。

ただ困った事に**体育館に水分はダメ！**を謳い文句に大々的に拡散させる業者が出て来たり、これだけが一人歩きしている所があります。

それが昨今の異常気象や、24時間空調完備の体育館が飛躍的に多くなって来ており本来であれば開館時に始動し、閉館後に落とすというのが常識だった空調も飛躍的な進歩により電源を落とすよりも24時間稼働の方が効率が良いというシステムもあるようです。

下の写真は千葉県内の某総合体育館の床ですが、床金具が動いてポールが入らなくなったので床板を張り替えて床金具を適正な位置に再設置してくれとの依頼を受けました。



床金具を破損する原因のひとつに、フローリングの収縮に伴い床金具の天板が動きポールと干渉し割れる事があります。

指定管理者様とのヒアリングで、数十年管理して来たが、フローリングの隙間が目立つようになりこんな事は始めてだ！とかなりご立腹の様子.....

ここ数年で変わった事といえば昨年空調をいれて11月より24時間稼動をさせたとの事。

この場合、御依頼の通りに貼り換えて天板を再設置すればその場は納まりますが、数年後金具の位置が元に戻りまた割れてしまう可能性が非常に高く実際に良くある事です。

床金具天板の位置が動く＝フローリングが収縮し動いている。＝異常な環境。

(湿度が高すぎる場合伸びる場合もあります。)

まず改善しなければいけない事は、正常な環境に戻してやる事。

【対策としてお願いした事】

簡単です。

①エアコンは必要以上に稼動させない。24時間換気をすぐに止める事。

②湿度が低く30～40%以下が続くようであれば、湿気の多い日、雨の日等を狙い外気の導入に積極的に励む事。

この2点を実施し様子を見てもらったところ床金具天板も元の位置に戻り支柱も問題無く刺せるようになりました。

弊社メンテナンスブック

2頁の4、天然木フローリングには適度な湿度が必要です。

をご覧ください。

